清国ニ対スル愚考〇〇

クララス氏ノ独逸侯大ノ子ヲ指ケタルモノ（極深ナリ）

十九世紀ノ末ニ於テノ大ノ観察スベキ事政ハ清国ノ経済的開放ナリ無限ノ天産物ヲ有シ工手巧ミニシテ勤勉ナル性質アリ其労金計ノ甚低キ吾民五億ヲ有スル世大国ハ今ヤ

外務省

414
A 997

早稲田大学図書

大正十一年四月
大隈侯爵家寄贈

1105

欧州列国ノ財源トナリ革新スベキノ
時機ニ切迫セリ若シ先ツ此革新後ノ
如何ヲ考慮スルアラシカ寧ロ憂慮
ニ堪ヘサルモノアリ満清ヲ分割シテ自
国ノ勢威ヲ擴張セント欲スルモノアリ
帝王ノ地域ヲ獲得シテ自国ノ土宇
ヲ盛大ナラシメント欲スルモノアリ皆是レ
目前ノ財利ニ眩惑スル徒ノ言ノミ

清国ノ經済的開放ハ欧州ノ經済
社界ニ反動ヲ来タシ此ノ開放ニ依テ
生スル新販路ハ一瀉千里ノ勢力ヲ以
テ欧州ノ強大ナル工業界ニ大挫折
ヲ来スヤ見ルヘキナリ清国ノ其邦土
ヨリ供給スル所ノ原料ノ豊富ナル労
働ノ低廉ナルカ如キニ至テモ歐州ニ呈
セサルヘク今若シ欧州ノ財産家ヲシテ

外務省

少原料ト労力ヲ経テ使用セシムルア
ラシカ欧州ノ工業ハ到底競争スル
コト能ハザルナリ已ニ英米両仏ノ実業
家ハ清国ノ一部ニ工場ヲ新設シ其創始
営費ノ低廉ナルヲ認メタルノミナラズ当
初此工場ノ器械及職工ハ欧州ヨリ運
致シタルモ清国人ノ手工巧妙ニシテ勤
勉ナル忽ニ其業ヲ会得シ欧人

外務省

ノ職工ヲ要セザルニ至リ且ツ労銀ハ一日
僅カニ五十ペニッヒ（即チ我二十五銭）
ニシテ清民ハ與シ易ク性質ノ順良ナル毫
モ罷業ヲ企ツルカ如キコトナク加之ナラス
廉価ヲ以テ近傍ヨリ其製造原料
ヲ得ルノ便アリ其利益ノ甚シキ以テ
世界ノ市場ヲ壟断スルニ足ル仮令欧
米諸国ニ於テ何程ノ保護税ヲ課ス

外務省

ルモ到底其輸入ヲ防止スルコト能
ハザルベシ況ンヤ西比利亜鉄道敷成
ノトキニ於テヲヤ因テ思フ鉄道ノ運賃ハ
汽船ニ比シ高価ナルモ其運達迅速
ノ点ニ於テハ其長所ナルヲ以テ航海業
ニモ著シキ影響ヲ及ボシ且ツ農産
物ノ如キモ漸々輸入セラレ欧州ハ清国ノ
貿易ハ依テ損害ヲ蒙ルハ蓋シ巨大ナルベシ

外務省

清国ト露西亜トノ関係

露国ト清国ト交通セシハ千六百五
十四年清帝順治十一年露国ヨ
リ使者ヲ北京ニ派遣セシメシヲ以テ権輿
トス此時ニ当リ黒龍江北岸ノ地ニ
既ニ哥薩克ノ數百名来リ住シ居
リ
千六百八十五年清兵ニ一萬八千人哥

外務省

薩克ノ来住セル アルバジン 府城（此
亞薩克ハ一千六百六十九年清暦但
康熙八年ナリ此ニ府ヲ移シタルモノ）ヲ
圍ミ數月ノ後亞薩克糧食ニ缺
乏シテ降リ尋テ次年ニ至リ忽チ此土
地ヲ回復シテソノ府城ヲ再建セリ
斯ル魯微ノ擾乱アリシヲ以テ両
國ハ千六百八十九年即チ清ノ康

熙二十八年ニ尼布楚（ネルチンスク）ノ和約成リ此
ノ和約ニ依リ西露西亞ハ黒龍江地方ノ全
部ヲ擧テ清ニ割與シタルハ清人ハ
尚ホ尼布楚ヲモ兼有セント欲シ交渉
經セシタリ
露西亞ノ清國ト始メ交際セシハ即チ公署ナリ
而シテ其レハ一千六百二十一年即チ順治
十八年ニシテ明朝全ク滅ビ康熙帝

外務省
外務省

即位ノ前年ニシテ法国ノ勢隆盛ヲ極
メタル時トス
当時露人ウラユガリーノ如キ一千二百
四十年ニ本国ヲ服従シテ法国ニ帰化
シ同行ワシー九セノモ部下数十人ヲ率ヒ
テ西比利亜ヨリ内化シ康熙帝ハ此ノ
一隊ノ露人ヲ満州鑲黄旗ノ第十七
小隊ニ属セシメウラユガリーヲ擢シテ

外務省

其隊長トセリ旗下露人ノ子孫ハ
今日ニ至ルマデ連綿トシテ北京城内
ニ存在セリ
ネルチンスク条約ノ　バハロフ将軍ガ
占領シタル（千六百四十八年ノ頃）
黒龍江西岸北東ヨリオコツク海ニ至ル
広大ナル地域ヲ法国ニ割與シタルハ
抑モ彼得大帝ノ始メテ露国ガ其

外務省

賤シ然ノ時ニ至テ帝ハ其先王アレキ
シス、ミハエロウイチノ東方經畧ハ
バロフ將軍ノ雄志ヲ併セ更ニ婦損
陸ソヒアノ黒龍江一帯ノ地ヲ清ヨリ
割讓シ然ルヲ深ク痛惜シタリト云フ
ネルチンスク條約以後露國ハ常ニ退
讓卑屈ノ態度ヲ取リテ劍リ清民ニ受
清帝ヲ嫌怒セシメサラシコトヲ以テシ唯一

ノ對清政策トセリ故ニ清人ハ露國ヲ
侮リテノ其貿易ヲ妨ゲ其使臣ヲ辱メ
暴慢無禮ヲ極メタリ
清ノ雍正五年即チ西暦千七百二十
七年西露ノ使節ラグジンスキー來
喀爾喀親王策凌ト喀爾喀ノ北
界ヲ議シ キャフタ條約十一條ヲ結
ヒ楚庫河ヨリ以西布爾穀特山

外務省
外務省

ニ及ヒ博穆汗欽ニ至ルモノヲ両國ノ
辺境トナシ市塲ヲ恰克圖（キヤクタ）ニ寘定
シメタルモ清國ハ屢々同条約ヲ破
壞シテ露モ之ヲ意トナサズ即チ準
喝爾汗（カルル）アムール江ノ露國ニ逃セ
亡セシトモノ如キハ六八年間キヤクタノ
貿易ヲ中止シ甚サヘ露商ヲ拘
禁スルニ至ル其後露國ノガリヤト人
ガ清境ヲ侵掠シ企タル爲メ永キ
ヤツタ条約ノ實行ヲ中止セラレタル
コトアリ降リテ千七百九十二年清國
ガ露ノ要求ヲ容レテ新条約ヲ訂結
セル時ノ如キ同条約ノ首款ニ左ノ如キ
傲慢ナル文字ヲ附セリ
神聖ナル清國皇帝ハ一般人類ニ對
スル思慮ヲ施シ露國ノ哀請ヲ納

外務省

蓋シ曾テ天恩恵ニ由リ茲ニ越ッタノ貿易ヲ許可スト

露西亜ハ十七世紀以降一面ハ中央亜細亜ノ經略ニ志シ一面ハ西比利亜大陸ノ侵入ヲ企テ屢バ清国ノ為メニ敗衂ヲ取リシモ堅忍強毅百折撓マス着々成功ヲ告ケ千八百五十八年ノ「リルンジヤ」新条約ニ依リテ周邊高貿易ヲシテ公開セシムルニ至リ殊ニ千八百四十二年（我天保十三年）彼ノ有名ナルムラヴヰヨフ将軍ガニコライ一世帝ノ鑒識ニ依ッテ東西比利亜總督ニ任セラレシヨリ清国ノ暴慢ニシテ而カモ卑怯ナルヲ看破シ又露ガ英仏壌土ノ強敵ト対峙スル最モ危険ナル時代ニ處シテ延長五千里ノ接壌地ヲカヘ

清国ト兵戈ヲ交エルノ言モナク得ルコトナク一兵ヲ動カサズ一丸ヲ放タズシテ清国内外多事ノ時機ヲ利用シ一千八百五十八年清国使臣黒龍江将軍奕山（イーしゃん）ト愛琿ニ会シ定界条約ヲ締結シタルガ如キハ實ニ露国ニ取リテハ偉大ノ功績ト云ハサルヲ得ズ此ノ愛琿条約ノ要領ハ左ノ如シ

第一 黒龍江ノ左岸地方ハ全ク露国ニ帰シ其右岸一帯ハ烏蘇里河岸ニ至ル迄ヲ以テ清国ノ領地トシ烏蘇里以内韃靼海岸ニ至ル迄ノ地ヲ両国共管ノ雑居地トス

第二 黒龍江松花江烏蘇里河ノ三流ハ今後唯両国ノ船舶航行ヲ許シ他ノ外国船ニハ一切ノ通航

外務省

ヲ禁止ス
第三ハ黒龍江沿岸ニ住居スル満州人ハ（旧露清境ニ）依然旧ニ依リ満州官吏ノ管理ニ帰シ露国人ノ侵犯セサルコト
露国ハ此ノ条約ニ依リ其位置権力ノ益要スル確点ノ一定スルニ至リ
也ニ次テ安政六年即千八百五十九年英仏両国軍ノ白河ニ侵入シ翌

六十年ニハ北京ヲ陥レ清帝熱河ニ蒙塵スルニ当リ当時露国已ニ機ヲ逸セス　イグナチエフ将軍ノ調停ノ労ヲ取リ其報酬トシテ北京条約ニ依リ日本海ニ面スル地方ニ於テ未分界内ニ属セサル所ノ九十一万三千五百八十一方哩ニ達スル領地ヲ得愛琿条約以来両岸共露ノ支配ニア

過キ来ル地方ノ己ニ擁シ独占スル事トシ且
ツ露商ハ張家口及庫倫ニ貿易
スルヲ許シ露人ハ領事館ヲ庫倫ニ設置
スルコトヲ預約セリ
此ノ条約ニ依リ露人ハ根拠ヲ浦潮ニ置
キ一千八百八十四年コルフ将軍黒龍
江総督ニ任セラレシ以来益々此地
方ノ経営ニ務メ歩ヲ進メツヽアリ

伊犁問題ノ如キパミール問題ノ如キ
将タ朝鮮問題ノ如キ論スル事アル毎
ニ露ハ其勢力ヲ発達ナラシメンコトヲ
期シ且ツ西比利鉄道ヲ起シテ以テ驥足ヲ
ニ逞シクシテ大ニ東亜ノ大勢ヲ制セントト
勉メツヽアルハ疑フ可カラサルノ事実ナ
リトス

清国ノ開国前ニ於ケル外交史

西欧ノ冒険者ピント、アンドレード、ウエッデル、等ノ清国ニ十七十六世紀ノ間ニ寄航セシ結果ハ清国ヲシテ外国ト貿易ヲ開始スルノ意念ヲ示シタルモ呂宋印度比律賓等ガ欧人ノ為メ侵略セラレタルハ清人ヲシテ猜疑ノ念ヲ生セシメ遂ニ鎖国ヲ以テ国是トナサシムルニ至リタリ

清国ノ欧州ニ知ラレタル一ハマリナスト称ス
ルチリア人ヨリ有名ナル地理学者トレミー
カ伝ヘシヲ記載シタルニ始テ倶ニ孔子
生誕ノ地トシテ又美麗ナル絹布ノ生
産地トシテ欧州ニ於テ其存在ヲ知ル
蓋シ尚ホトレミーノ時代ヨリ以前ニ在リ
タル一明瞭ノ事実ナリトス
支那ノ羅馬及希臘ト交通シタル
ノ事実ハ東西ノ歴史ニ依リテ徴
スヘク亜剌比亜人モ亦支那ト貿
易ヲナシタルノ事蹟アリ
蒙古ノアコツタイ死去ノ後羅馬法
王ヨリ使節ヲ元ニ送リタルコトアリ
カルビニート云フ僧侶此ノ使節ニ当リ
後其記ニ依リ外ルコレヤノ大会アトナ
レリ

支那ハ鎖国主義ニアラザリシガ元ノ世ニ
於テ其征討セル部落ヨリシテ再ビ其
地ニ入リ来ルコトヲ禁シ稍鎖国主義
ヲ取リタルノミ清国中原ヲ平定スルニ当
リ漸ク其主義ヲ守リ広東一港ノ外
外人ノ入ルヲ禁シタルハ蓋シ当時外国
人ハ清人ノ厭悪スヘキ幾多ノ挙動
アリタルニ依タル今[illegible]支那人ノ書

外務省

ヲ見ルニ仏郎機（フランクカ）トスフ西[illegible]ノ始メテ（千五百〇三年）
朝貢シテ指揮スル所トナリタルヲ西
欧人互市ノ端緒トナリトス此
時ニ当リ和蘭人モ亦船二三艘ヨリ以
テ澳門（マカヲ）ニ至リ彼ハ髪紅ナルヲ以テ
紅毛（コーモウ）ノ称アリ
葡萄人ラフエール、ブエレストレロ千五
百十六年清国ニ至リタルヲ葡人ノ

外務省

支那ニ来ル船ノ始メトシ千五百四十二年ニハ已ニ葡人五六百名ノマカヲ近傍ナルランパサヲト称スル地ニ常住スルヲ見ル後チマカヲニ移レリ千五百七十三年葡人ノニンポー（寧波）ニ在ルモノ地方人民ノ怒ヲ招キ八百余人斬殺セラレ又翌千五百四十九年ニチンチヨウト称スル所ノ[illegible]港ニ追放セラレ

外務省

後年ランパサヲニ箱来セラレタリ葡人ハ支那帝ニ使臣ヲ送ルコト前後四回ニ及ヒ第一ノ使節タル トメ、ピレスハ間諜トシテ放還セラレ第二ハ マラツカニ於テ抑留セラレ第三ハ千七百二十七年アレキサンドロ、メテロニ依リ始メテ北京ニ達シ皇帝ニ謁見スルコトヲ得第四ハ千七百五十二年ニ北京ニ至レリ

外務省

和蘭ハ一千六百二十四年台湾ニ拠リタル以来百三十六年間使節ヲ北京ニ送リタルコト有リ一千七百九十三年ニ於テ英ハ始メテ使臣ヲ発遣シタリ

英吉利ハイリザベス女皇ノ代ニ在テ千五百九十六年甘支那ト貿易ヲ開カントシテ成ラズ其後ノ千六百三十七年ヴエツデルノ指揮セル英船始メテ澳門ニ至リタルモ其希望ヲ達スルコト能ハズ千六百六十四年英船再ビ澳門ニ至リ亦成効セズ而シテ千六百七十七年厦門ニ至リタル東印度商社英船ハ好結果ヲ得テ帰リタルヲ以テ其翌年ニ於テ該地ニ開楼シ千六百八十一年ニ至リ一時撤棧シタルモ更ニ貿易ヲ厦門ニ開始セリ英吉利ハ斯クノ如ク当初東

外務省

印度商社ニ依リ法邑ト貿易ヲ為シ其
公然条約ヲ締結シタルハ千八百四十三年
阿片ノ乱後ナリトス
米国ハ千七百八十四年ニ始メテ法邑ト
貿易ヲ開始シタリ同千八百四十四年
ニ於テ公然ノ条約ナキモ六十余年間貿易
上毫モ沮滞スルコトナカリキ

漢人ト胡人トノ関係
漢人ト先ヅ相接觸シタルハ苗人種ニシ
テ禹ノ代ニ在テハ其住セシ黄河沿山岸三
百里ニ過キス苗ハ其境外ニ在リ周ニ
獯鬻、及玁狁ノ患アリ又昆夷ノ難
アリ皆北夷ノ一種トス
西戎北狄ハ周ノ世ニ在テ盛ニ[illegible]ニ縦両
州ニ雜リ成王ノ時徐夷淮夷ノ乱アリ宣

王ノ時ニ玁狁北ヨリ起リ幽王ハ犬戎ニ
殺サレ平王ノ東遷ハ戎ヲ避クルカ為
ニシテ齊桓公ハ管仲ノ力ニ依リテ狄、戎ヲ
斥ケリ
匈奴ハ周末蒙古ノ地ニ起リ南下ノ志アル
ヨリ趙ハ長塞ヲ築キテ之レカ防禦ニ
備ヘ秦亦之ヲ増築シテ其軼ヲ備ヘタリ
萬里ノ長城ハ是レナリ蒙恬三十萬ノ

大兵ヲ率ヒテ北方ニ屯シ久シク之レヲ防
カレカ為ナラ
秦ノ國勢衰ヘタル為メ匈奴ガ冒頓單
于大ニ地ヲ廣メ東ハ蒙古種ノ東胡ヲ
滅シ西ハ西藏ノ月氏ヲ走ラセ南山西
ノ右京存ニ至テ漢高祖モ亦敗北シテ
僅カニ身ヲ以テ免ルヽニ至リ劉敬ノ策
ヲ以テ公主ヲ單于ニ嫁シ毎歳綿絮

外務省

酒食ヲ豊ニシテ好ヲ結ベリ
漢ノ武帝匈奴ヲ征スルコト前後十五回
彼ノ西暦紀元前百三十三年ノ如キハ
匈奴ヲシテ遂ニ上谷郡即チ今ノ直
隷宣化府ニ入ラシムルニ至リ其後匈奴内
乱アリ渾邪王今ノ甘粛西北境ノ地
ヲ以テ漢ニ降ルニ及ビ其勢大ニ衰ヘル
ニ至リ紀元前三十二年漢ノ西域

外務省

都護甘延寿副校尉陳湯等ノ
為メニ滅サレヌ
匈奴ハ後漢ノ世ニ及ンデ南北ニ分レ互ニ
相攻伐シテ其勢漸ク微ナルニ至ル明
帝ノ世ノ耿秉竇固等匈奴ヲ
征シ蒲類海（バルクル）（今ノ甘粛鎮西府ノ西
北ニ至リ伊吾盧（甘粛鎮西府哈
密庁）ヲ取リ屯田兵ヲ置キテ還ル

外務省

西晋以後全ク四分五裂シ戎狄漢
人交錯リ互ニ攻伐シ支那全土ヲ統一
スルモノナケレバ支那全体ヲ代表シテ四囲
ノ邦土ト接觸スルモノナシ
隋ノ世ニ突厥アリ突厥ハ世々金山即
チ今ノ甘粛鎮西府ノ北境ノ南ニアリ
東西突厥ニ分レ東突厥先ヅ隋
ニ叛シ武メ衆ヲ合シテ之ニ寇スルニ至

外務省

レリ
唐ハ東突厥ノ力ヲ借リ中原ヲ平
定シタルヲ以テ賂遺甚ダ厚カリシガ唐
ノ西突厥ト通ゼルヨリ六二四年ニ及
六二七年ノ両度ニ於テ来寇シ盟ヲ
受ケテ還リ然レドモ東突厥ノ突利
可汗其叔父頡利可汗ト隙アリ且ツ東
突厥内乱ヲ生ジタルヲ以テ唐ノ太祖ハ其弊

外務省

ニ生ジテ紀元六三〇年兵ヲ遣シテ頡利可汗ヲ虜ニシ西突厥亦降ルニ至レリ太宗ノ世東突厥ヲ金山ノ北ニ討チ高宗ノ末年突厥内乱アリ匈奴族ノ回紇其虚ニ乗ジテ並ニ突厥ヲ滅セリ安禄山ノ乱ニ粛宗使ヲ回紇ニ遣シ其援ナルヲ以テ内乱平定セシカバ回紇ハ其功ニ依リ唐ノ皇女ヲ娶リ爾来唐

ト和親ヲ結ベリ又之レ吐蕃ト称スル羌族ハ安氏ノ乱ニ乗ジテ長駆シテ長安ニ入リシモ幾クモナク撃退セラレタ

契丹モ亦ツングース人種ニシテ唐ノ末ヨリ漸ク強大トナリ其太祖耶律阿保機（エリテアホキ）ハ諸州ヲ併セ東ハ渤海ヨリ西ハ吐谷渾党項等ヲ降シ其子太宗石敬瑭（後晋高祖）ヲ助ケタルヨリ其報トシテ直隷山西ノ北部

ヲ得毎歳貢帛三十萬匹ヲ受ク
後晋ノ出帝臣ヲ契丹ニ称セサルヨリ契
丹入寇三回ニ及ビ遂ニ其滅スル所トナリ
契丹国号ヲ大遼ト改ムルニ至レリ

外務省